

# 障がいのある人の日常をミニ体験！

途中失明で盲導犬ジーンと共に参加した碓谷純子さん、先天性全盲で白い杖を持って移動する中山利恵子さん、途中失聴で聴導犬チャンプとともに来場した松本江理さんをホストに、障がいのある人の日常をミニ体験してからトークスタート！

## 全員アイマスクして自己紹介！

碓谷 純子さん(途中失明)、盲導犬ジーン

全員がアイマスクをしているので、話し始めるタイミングがわからない！話者の表情も見えないし、喋り終わったのが「間」なのかも判断つかず戸惑いました。見えない中では買い物一つするのも大変で、スーパーでは商品の陳列が変わるので、お店の人に援助して貰う事もあるそうです。家では物に「定位置」が決められてあり、家族にはそこに必ず戻して貰うよう頼んであるそうです。



## スマホの読み上げ機能を使いこなす

中山 利恵子さん(先天性全盲)、白杖

iPhoneの音声読み上げ機能が、スマートフォンに表示されている情報を音声化してくれる様子に一同びっくり。必要なリンクにも飛ぶことができます。ただ、テキスト(文字)は読み上げてくれますが、バナーや表は読み取れません。情報が必要な人にタイムリーに届くにはニーズを理解した発信が大切。電話番号、住所等は特にテキストのみの情報も必要です。ユーザーが選べるようになればベストだと感じました。



## UD トークで会話を可視化！

松本 江理さん(途中失聴)、聴導犬チャンプ

UDトーク(アプリ)と手話通訳士を介してのコミュニケーションを行いました。このやり方で気づいたことは一度に喋れるのは一人であるということ。また、先天性のろう、中途失聴、難聴など人によって「聞こえない」状態も得意なコミュニケーション手法も違います。皆、手話ができるわけではありません。UDトークも万能ではないけれど、それでも情報がある方がよいと思いました。25年聴導犬と暮らしている松本さん、いまま補助犬との入店やタクシーの乗車拒否など無理解に苦しむことがあるようで補助犬法の理解促進活動に力を入れています。



## ふり返って - 「ガイドヘルパーの資格をとる」宣言！ -

「百聞は一見に如かず」といいますが、当事者のお話を伺い、疑似体験をしたからこそその気づきも多くありました。無知の知というものを経験から学んだという声もあり、振り返りの時間には「ガイドヘルパーの資格をとる！」という宣言も飛び出しました。参加者の多くは親であり、我が子や周囲にどう伝えていくか、伝えていきたいか等も考える機会となりました。

## 協力団体

NPO 法人日本補助犬情報センター

補助犬の社会における理解と普及を目指した活動とともに、障害者の社会参加・社会復帰を推進する事を目的に、第三者機関として中立の立場から相談・情報提供を行っている。

<https://www.jsdrc.jp/>